

# 富山県森林審議会総会資料

## 【審議事項】

- ・ 諮問書（写し） P 1
- ・ 神通川地域森林計画変更の概要 P 2
- ・ 庄川地域森林計画の概要（樹立） P 3

## 【報告事項】

- ・ 全国森林計画の策定について（概要） P 4
- ・ 森林保全部会審議事項等の報告 P 5
- ・ 森づくり部会報告 P 7
- ・ 「富山県森林・林業振興計画」に基づく重点対策の実施状況 P 8
- ・ 災害に強い山づくりの検討状況 P10
- ・ 山のみち地域づくり交付金等事業の実施状況 P11



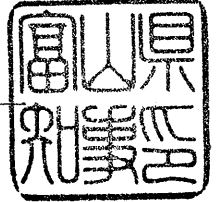


森政第2332号

平成20年12月8日

富山県森林審議会長 殿

富山県知事 石井 隆



神通川地域森林計画の変更及び庄川地域森林計画の樹立について（諮問）

このことについて、森林法第6条第3項の規定に基づき、貴審議会の意見を求めます。

# 神通川地域森林計画変更の概要

## 1. 第2章 計画事項

平成20年10月の全国森林計画策定により、神通・庄川広域流域の計画量、「森林施業の合理化に関する事項」等の記載事項が改定されたこと、平成19年度に「富山県森林・林業振興計画」が策定されたこと及び、近年の実績等を考慮し、次のとおりとした。

### (1)計画量

項目		変更後の計画量 H19.4～H29.3	変更前の計画量 H19.4～H29.3	変更理由
伐採立木材積	主伐	331 千m <sup>3</sup>	240 千m <sup>3</sup>	全国森林計画の策定
	間伐	784 千m <sup>3</sup>	335 千m <sup>3</sup>	〃
造林面積	人工造林	729 ha	960 ha	〃
	天然更新	1,640 ha	455 ha	〃
林道の開設延長		59 km	116 km	〃
保安林面積	水源かん養	31,644 ha	31,729 ha	〃
	災害防備	29,980 ha	29,837 ha	〃
	保健・風致	6,483 ha	6,583 ha	〃
治山事業の施行地区数		149 箇所	149 箇所	—

※保安林面積は計画期末の面積

### (2)記載事項

- ①「第2章 計画事項」「第3項 計画事項」の「6 公益的機能別施業森林の整備に関する事項」の「(3)公益的機能別施業森林の区域における施業の方法に関する指針」
  - ・水土保全林の指針に、生物の多様性の保全に係る内容を記載。
- ②「第2章 計画事項」「第3項 計画事項」の「8 森林施業の合理化に関する事項」
  - ・「(1) 森林施業の集約化の促進」に、境界の整備に係る内容を記載。
  - ・「(3) 林業機械の導入の促進」に、低コスト・高効率な作業システムの普及及び定着に係る内容を記載。
  - ・「(5) 流通・加工体制の整備」に、合法木材の利用の普及に係る内容を記載。

## 庄川地域森林計画の概要（樹立）

### 1. 第1章 基本事項

森林・林業を巡る近年の状況を踏まえた内容とした。

### 2. 第2章 計画事項

平成20年10月の全国森林計画策定により、神通・庄川広域流域の計画量、「森林施業の合理化に関する事項」等の記載事項が改定されたこと、平成19年度に「富山県森林・林業振興計画」が策定されたこと及び、近年の実績等を考慮し、次のとおりとした。

#### (1) 計画量

項目		今計画の計画量 H21.4～H31.3	前計画の計画量 H16.4～H26.3
伐採立木材積	主伐	488 千m <sup>3</sup>	193 千m <sup>3</sup>
	間伐	595 千m <sup>3</sup>	304 千m <sup>3</sup>
造林面積	人工造林	1,030 ha	845 ha
	天然更新	1,420 ha	316 ha
林道の開設延長		46 km	64.1 km
保安林面積	水源かん養	14,617 ha	14,355 ha
	災害防備	16,024 ha	15,413 ha
	保健・風致	2,153 ha	2,103 ha
治山事業の施行地区数		111 箇所	142 箇所

※保安林面積は計画期末の面積

#### (2) 記載事項

- ① 「第2章 計画事項」「第3項 計画事項」の「6 公益的機能別施業森林の整備に関する事項」の「(3)公益的機能別施業森林の区域における施業の方法に関する指針」
  - ・水土保全林の指針に、生物の多様性の保全に係る内容を記載。
- ② 「第2章 計画事項」「第3項 計画事項」の「8 森林施業の合理化に関する事項」
  - ・「(1) 森林施業の集約化の促進」に、境界の整備に係る内容を記載。
  - ・「(3) 林業機械の導入の促進」に、低コスト・高効率な作業システムの普及及び定着に係る内容を記載。
  - ・「(5) 流通・加工体制の整備」に、合法木材の利用の普及に係る内容を記載。

# 「全国森林計画」の策定について（概要）

## 1 全国森林計画の概要

全国森林計画は、「森林法」第4条の規定に基づき、農林水産大臣が、全国の森林について5年ごとに15年を1期としてたてる計画であり、「森林・林業基本計画」（平成18年9月8日閣議決定）で示した長期的かつ総合的な政策の方向・目標の達成に向けた、森林の整備・保全等に関する具体的計画を定めるものである。

また、森林法第5条第1項に基づき都道府県知事が策定する「地域森林計画」等の規範として、森林の整備・保全の基本的な考え方及び施業の基準等を示すとともに、広域的な流域ごとに森林整備の目標等を明らかにするものである。

## 2 次期計画のポイント

### ○国産材の安定的な供給

- ・伐採立木材積を現行計画の約2割増。
- ・合法木材や持続可能な森林経営が営まれている森林から生産された木材、木材製品の利用の普及を推進することを記載。

### ○国民ニーズを踏まえた多様な森林整備の推進

- ・育成複層林面積を現況（平成18年度末）の約1.7倍増。
- ・水土保持林で、生物多様性の保全に資するための森林施業を推進することを記載。

### ○森林吸収量目標の確保

- ・間伐量を現行計画の約1.4倍増。
- ・「美しい森林づくり推進国民運動」の展開。

### ○施業の集約化等の推進

- ・森林の整備・保全の基本的な考え方に、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システムの普及及び定着、施業の集約化に努めることを記載。
- ・森林施業の推進の条件整備として、境界の整備など森林管理の適正化を図ることを記載。

## 3 次期計画の期間

平成21年4月1日から平成36年3月31日まで（15年間）

平成 20 年 12 月 18 日

## 森林保全部会審議事項等の報告

(平成 19 年 12 月 19 日～平成 20 年 12 月 18 日)

### 1 林地開発行為の許可

森林審議会に意見を求めたもの。0 件

申請者	申請地	開発の目的	開発面積 (ha)	諮問年月日	開催及び答申年月日	許可年月日
該当なし						

### 2 林地開発行為の許可

森林審議会諮問基準に該当しない規模のもの。(開発地に含まれる森林が 5ha未満)1 件

申請者	申請地	開発の目的	開発面積 (ha)	許可年月日
株式会社北陸廃材再開発公社	高岡市 西海老坂 (字棚谷内)	土砂の採取	3.0200 (4.8000) (4.8000)	平成 20 年 6 月 13 日

※開発面積欄 上段 : 実際に開発する森林面積  
中段 ( ) : 開発地に含まれる森林面積  
下段 ( ) : 開発地の面積

### 3 林地開発行為の変更許可

森林審議会諮問基準に該当しない規模のもの。(開発地に含まれる森林が 5ha未満の増)3 件

申請者	申請地	開発の目的	開発面積 (ha)	許可年月日	変更内容
アイエス総合開発株式会社	富山市 三熊	産業廃棄物 最終処分場	6.0843 (0) (16.5830)	平成 20 年 3 月 31 日	処分施設の増設 (水処理施設の増設)
株式会社清河工業	魚津市 東山	土砂の採取	2.1959 (0.3223ha の減) (3.7455)	平成 20 年 6 月 27 日	事業区域の 見直し等
夏野土木工業株式会社	黒部市 窪野	産業廃棄物 中間処理場	3.8072 (0.1526ha の減) (7.7447)	平成 20 年 6 月 27 日	開発目的の変更 (変更前: 土砂の採取)

※開発面積欄 上段 : 実際に開発する森林面積  
中段 ( ) : 開発地に含まれる森林面積  
下段 ( ) : 開発地の面積

#### 4 林地開発行為の軽微な変更

許可を要しないもの。(届出) 11件

申請者	申請地	開発の目的	届出受理年月日	変更内容
株式会社北陸廃材再開発公社	高岡市西海老坂 (字上峠)	土砂の採取	平成 20 年 2 月 27 日	期間延長、H21.10.31
たち建設株式会社	砺波市井栗谷	土砂の採取	平成 20 年 4 月 30 日	期間延長、H21.05.31
有限会社岩本組	富山市榆原	土砂の採取	平成 20 年 5 月 27 日	期間延長、H23.06.10
若栗建材株式会社	黒部市若栗	土砂の採取	平成 20 年 6 月 11 日	期間延長、H25.06.30
坂本組株式会社	砺波市正権寺	土砂の採取	平成 20 年 6 月 30 日	期間延長、H25.06.30
殖生サンド有限会社	小矢部市殖生	土砂の採取	平成 20 年 9 月 3 日	期間延長、H23.11.30
株式会社東洋住設興業	富山市八尾町深谷	産業廃棄物 中間処理場	平成 20 年 9 月 11 日	期間延長、H21.09.30
長崎土石株式会社	富山市大山町牧野	土砂の採取	平成 20 年 9 月 26 日	期間延長、H25.10.31
野手建設運輸有限会社	南砺市吉見	岩石の採取	平成 20 年 10 月 17 日	期間延長、H23.10.26
有限会社山本土石	南砺市大鋸屋	岩石の採取	平成 20 年 11 月 14 日	期間延長、H23.11.20
上田組重機株式会社	中新川郡立山町栢津	土砂の採取	平成 20 年 12 月 3 日	期間延長、H26.01.31

#### 5 林地開発行為の完了

完了したもの。0件

申請者	申請地	開発行為の目的	完了年月日
該当なし			

#### 6 県内で現在開発中の林地開発件数

目的別件数

土石等の採取	46件 (82%)
産業廃棄物最終処分場	6件 (11%)
その他の開発	4件 (7%)

---

総件数 56件



## 森づくり部会報告

平成20年6月10日に開催した「富山県森林審議会森づくり部会」における平成19年度に実施した水と緑の森づくり事業の評価結果については次のとおりでした。

### 1. 事業費の概要と評価結果

(1) 富山県水と緑の森づくり基金積立金	280,373千円	
内訳 水と緑の森づくり税相当額	274,651千円	
寄附金	5,062千円	
運用益	660千円	
(2) 水と緑の森づくり事業費	258,808千円	評価結果
I 水と緑の森づくり推進事業	830千円	—
II 里山再生整備事業	83,694千円	【達成】
III みどりの森再生事業	74,123千円	【ほぼ達成】
IV とやまの森づくりサポートセンター活動推進事業	28,049千円	【達成】
V とやまの森づくり総合情報システム事業	24,825千円	【達成】
VI とやまの森づくり普及啓発推進事業	2,985千円	【達成】
VII 県産材利用促進事業	35,965千円	【達成】
VIII 県民による森づくり提案事業	8,337千円	【達成】

### 2. 総合評価

平成19年度事業については、里山再生整備事業は地域の要望に応じて進められ、366ヘクタールで整備が進められた。また、森林ボランティア等による森づくりへの年間参加延べ人数が5年後の目標人数の6,000人を大きく超えるなど、その実績は、初年度でありながら**予想以上の成果として評価**できる。

今後も、地域ニーズ等を踏まえた事業の実施に努め、また、森林整備の質的確保のためにも、整備後の里山の維持管理が地域の皆さんにより続けられるよう働きかけるとともに、混交林の整備についても計画どおり実施できるよう、森林所有者へ働きかけられたい。

また、森づくりを支える人づくりについては、森づくり活動への参加を支援する取組みを引き続き進めるとともに、その輪がさらに広がるよう、森づくりに関する普及啓発や県産材の良さの啓蒙、それらの情報も含めた県民ニーズに対応した情報提供に一層努められたい。

## 1 県民参加による多様な森づくりの推進

### 「森を活かす」—県民参加による「里山林」と「混交林」の整備—

#### (1) 水と緑の森づくり税を活用した里山の再生整備と混交林の整備など

- ・ 「里山再生整備事業」による里山林整備を86地区756haで実施。
- ・ 「里山の集い」などの里山の利活用体験活動を上市町黒川で3回開催。
- ・ 「みどりの森再生事業」による森林整備を76haで実施。
- ・ 「みどりの里親の集い」によるドングリ拾いを「頼成の森」で開催。

#### (2) 「森の寺子屋」による森林環境教育の推進など

- ・ 「森の寺子屋」を72回実施予定。
- ・ 「とやま森の教本」を製作中。



### 「木を使う」—県民による県産材の有効活用の促進—

#### (1) 水と緑の森づくり税を活用した県産材の利用促進など

- ・ 「県産材利用促進事業」により、県産材積木の幼稚園への配布やイベントへの貸出、木製遊具の設置や、児童机の県産材天板への置き換え、公共施設等への県産材ベンチの設置や内装木質化への支援などを実施。
- ・ 県産材アドバイザーを新たに38名認定。(既認定者と併せて115名)

#### (2) 木質バイオマスの利用促進など

- ・ 木材研究所において、間伐材を利用した高カロリー燃料開発の研究を実施。



### 「人を育てる」—森林ボランティア活動への支援—

#### (1) 「とやまの森づくりサポートセンター」による森林ボランティア活動への支援

- ・ 機材の貸し出しや、森づくり塾の実施、ボランティア交流会の開催など森林ボランティア活動や企業の森づくり活動を総合的・専門的に支援。

#### (2) 「とやまの森づくり総合情報システム」による県民への森づくり情報の提供など

- ・ 「とやまの森づくりホームページ」による水と緑の森づくり事業の実施状況や、「とやまの森づくりサポートセンターホームページ」によるボランティア活動などの情報を提供。



## 2 魅力ある林業の構築

### 「森を活かす」—持続可能な林業経営の推進—

#### (1) 施業集約化モデル団地の設定による木材生産の促進

- ・ 「施業集約化モデル事業」による団地の取組みを6地区233haで実施。

#### (2) 作業路網整備の支援

- ・ 作業道11.9km、低コスト道23kmの整備を実施。

#### (3) 高性能林業機械の整備支援

- ・ 高性能林業機械（フォワーダ等）4台の整備に支援。



### 「木を使う」—県産材の新たな流通システムの構築—

#### 直送方式による流通の低コスト化の促進

- ・ 製材工場等の大口需要者との間で協定を締結し、山元からの直送を行うことにより流通コストの低減を図る新たな流通システムの構築に対して支援。



### 「人を育てる」—とやまの林業を支える人材の育成—

#### 富山県林業カレッジの研修による魅力ある林業に期待される役割に応じた人材の育成

- ・ 施業集約化・団地化を企画・立案し地域の合意形成を加速化する人材（森づくりプロデューサー）を5名養成。
- ・ 低コスト生産を担う低コスト作業路開設技術者を6名養成、高性能林業機械の操作技術ステップアップ研修を開催。



# 災害に強い山づくりの検討状況

平成20年12月18日  
森林政策課

## ○経緯

本年7月28日に南砺市を襲った豪雨災害では、土石流と一体となって流下した流木等が下流の橋や暗渠等を閉塞させ、施設の破壊や溢水による民家や水田への流木の流入など甚大な被害を与えた。

時間雨量が132ミリという、これまで経験したことのない局所的短時間の集中豪雨により溪流の流量が急激に増大し溪岸侵食等が発生、生育していた立木等を根こそぎ倒し流木化したことが、今回の災害の一つの要因であったと推測される。

このため、「災害に強い山づくり検討委員会」を設置、今回の流木災害をモデルとしてその発生原因やメカニズムを解明し、今後の本県における森林整備のあり方や土砂、流木の流出防止対策等を検討する。

### 今回の豪雨による流木発生状況

これまでの経験のない短時間の局所的異常降雨が発生、土壌に浸透する間もなく流下。 ※時間降雨量132ミリ、日雨量272ミリ（7月28日南砺市小院瀬見）

- ・溪流の流量の急激な増大により  
溪岸侵食が発生
- ・地域によっては山腹の表層剥離
- ・溪畔林の倒木、流木化
- ・土砂の溪流、河川への流入



南砺市 樋瀬戸 峠野島 地内(猿倉谷:日中ダム下流左岸)

### 流木による被害状況

下流の橋梁や道路暗渠を閉塞 → 施設の破壊  
住宅浸水や水田への土砂・流木の流入

水田等に流出した流木を調査した結果、スギ、オニグルミなど溪畔に生育している樹種が多く見受けられ、スギと広葉樹の体積比率は6:4であった。  
※木材研究所調査

地域住民の生活や生産  
基盤に大きな支障



南砺市 才川七 地内(太谷川下流)

### 災害に強い山づくり検討委員会での検討

#### 災害に強い山づくり検討委員会委員名

役職	氏名
日本大学生物資源科学部 教授	阿部 和時
東京農工大学大学院共生科学技術研究院 教授	石川 芳治
独立行政法人森林総合研究所 主任研究員	小川 泰浩
林野庁森林整備部治山課 山地災害対策室長	川野 康朗
富山大学大学院理工学研究部 教授	竹内 章
南砺市長	田中 幹夫 ※11/28～ 溝口 進 ※11/27まで

(五十音順)

#### 第1回検討委員会 (11月7日)

- 今回の豪雨災害の概要
- 現地調査

#### 第2回検討委員会 (平成21年1月頃)

- 流木発生機構の解明
- 流木発生危険地域設定の考え方
- 対応策の検討
  - ・溪畔林や森林整備手法
  - ・流木捕捉施設の構造
  - ・効果的な治山砂防施設の配置 など

#### 第3回検討委員会 (平成21年3月頃)

- 報告書とりまとめ

### 民間コンサルタントへ委託

#### 空中写真の撮影

南砺市の山崩れ、荒廃溪流を対象とした精度の高い空中写真を撮影

縮尺:1/12,500 範囲:122.5km<sup>2</sup> 枚数:59枚

※10月16日撮影完了

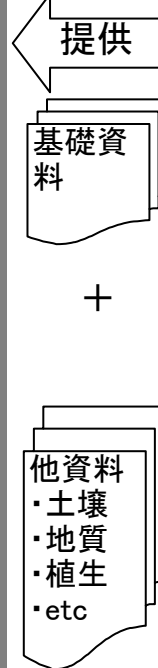
撮影した空中写真をベース

#### 空中写真を用いた概況調査

○空中写真の判読、分析し、検討委員会に基礎資料提供

- ・流域の荒廃地の位置、数、大きさ
- ・荒廃溪流の長さ、幅
- ・森林の樹種、分布、状況
- ・倒木等の発生状況 など

※10月14日に発注、作業中



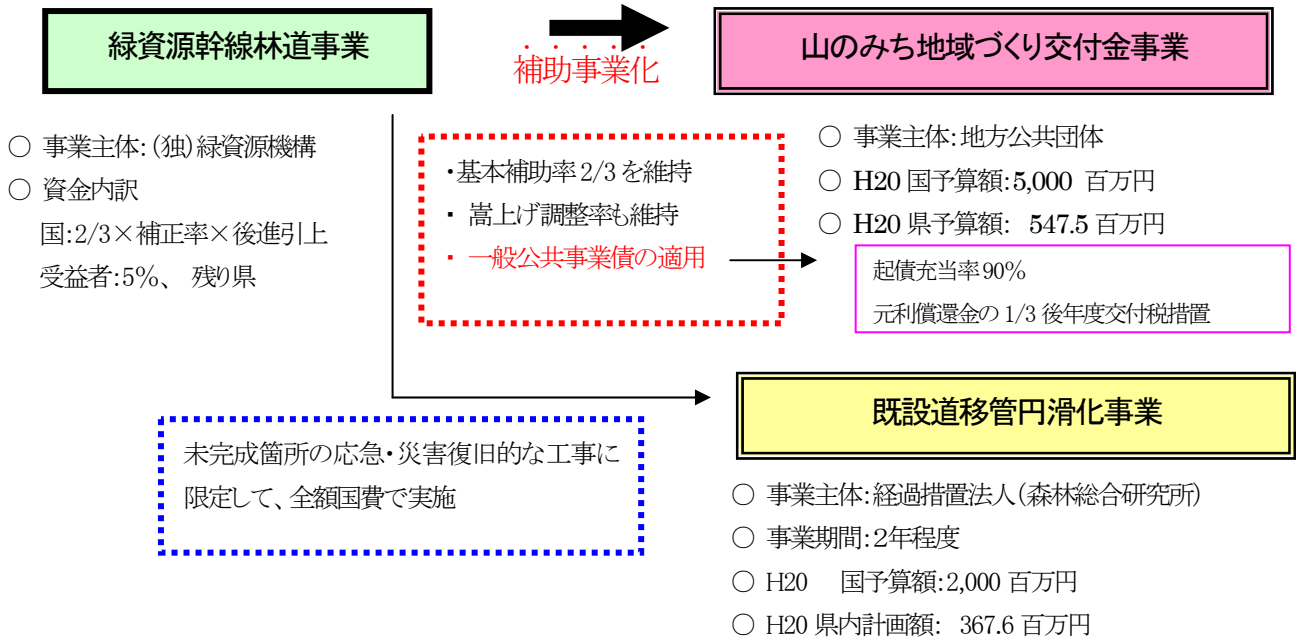
南砺市の豪雨災害をモデルとした調査検討により県内各地域で災害に強い山づくりを推進

# 山のみち地域づくり交付金等事業の実施について

## 1. 経緯

森林の適正な管理や山村地域の生活環境の改善等に資する緑資源幹線林道事業は、平成19年度末をもって廃止され、承継事業として平成20年度から県に対する補助事業である「山のみち地域づくり交付金事業」が創設された。また、未完成箇所のうち、そのままの状態では災害が発生する恐れがある箇所を全額国費で復旧する「既設道移管円滑化事業」が創設された。

## 2. 事業の概要




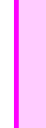




## 3. 本県の実施状況

(事業費: 百万円)

旧路線名	新路線名	全体計画		H20計画	
		延長(km)	事業費	延長(km)	事業費
朝日・大山 延長 32.9km 完成 6.5km 未完 26.4km	宮崎・蛭谷	11.5	5,109	0.1	104.5
	羽入・明日	6.5	3,108	-	-
	下立・嘉例沢	4.9	1,674	-	-
	福平・東城	3.5	1,558	0.3	75.0
高山・大山 延長 29.8km 完成 20.9km 未完 8.9km	有峰	8.9	8,897	0.1	160.5
大山・福光 延長 70.7km 完成 11.3km 未完 59.4km	大山Ⅰ	9.7	5,536	-	-
	大山Ⅱ	9.8	5,922	-	-
	大山・大沢野	12.5	6,504	-	-
	大沢野・八尾	9.7	3,981	0.5	119.0
	上平・福光	17.7	5,807	0.3	88.5
計 延長 133.4km 完成 38.7km 未完 94.7km 整備率 29.0%	計	94.7	48,096	1.3	547.5

# H20年度 山のみち地域づくり交付金事業等 実施箇所位置図

凡 例	
	山のみち地域づくり交付金事業 計画区間
	旧緑資源幹線林道 完成区間
	旧緑資源幹線林道 公道利用区間
	山のみち地域づくり交付金事業 H20実施箇所(県事業)
	既設道移管円滑化事業H20実施箇所 経過措置法人(森林総合研究所)事業
	円滑化

